

令和4年3月

保護者様

ときわみなみのこども園

園長 小畑 圭子

学校評価報告について

今年度の保護者評価アンケート、職員自己評価を含めた「学校評価」のご報告をさせていただきます。「幼保連携型認定こども園ときわみなみのこどもえん」の取り組みを自ら振り返り本園の教育活動、その他の運営についての改善を目指すとともに保育の向上に努めて参ります。

学校評価のねらい

- ① 各こども園が教育活動その他の運営について、具体的な目標を設定し、その達成状況を整理して取り組みの適切さを検証することにより、組織的、継続的に教育の改善をする。
- ② 各こども園が、自己評価・学校関係者評価の実施・結果の公表により、保護者、地域住民から教育活動その他の運営に対する理解と参画を得て、信頼される開かれたこども園づくりを進める。
- ③ 各こども園の設置者が、学校評価の結果に応じて学校に対する支援や条件整備の改善措置を講じることにより、教育水準の質を保証し、その向上を図る。

令和3年度の学校評価は次の内容でまとめました。

- ① 自己評価結果報告書
- ② 今後取り組むべき課題
- ③ 保護者アンケート結果

自己評価結果報告書

1. 本園の教育目標・方針

【教育の目標】

- ・豊かな自然体験で「素直に感じる心」を育みます。
- ・遊びや生活の中で、「感性や表現力、思考力やコミュニケーションの力」などを育みます。
- ・異年齢の関わりを通して、年下の子供たちへの「思いやり」や年上の子どもたちへの「憧れ 大きくなることへの期待」などを育みます。
- ・生活の中で使う言葉や絵本などを通して、「見る・聞く・話す力」をしっかりと育みます。

【教育の方針】

遊び保育から学ぶ「遊び保育」を柱とし、「主体的・対話的で深い学び」を育み小学生へと繋げていきます。子どもが「おもしろそう」「やってみたい」と感じ、意欲的、主体的に関われるような豊かな環境を、意図的、計画的に構成していきます。

また一人ひとりの子どもに対する理解と配慮を大切にしていきます。

2. 本年度、重点的に取り組む目標や計画

課 題	具体的な取り組み方法
保育環境の充実 保育の質の向上	<ul style="list-style-type: none">・乳児保育への理解を含め、本園の目指す方向を再確認し望ましい体制を再構築しながら、一人ひとりに丁寧に関わる保育を行う。・遊びを充実させる環境構成の研究。・積極的な研修への参加、充実した園内研修の実施
保護者との連携	<ul style="list-style-type: none">・保護者との信頼関係を築き、こども園での様子、成長した姿を伝える。・日々のクラスの様子やこども園の取り組みなど、クラス blog、ホームページを更新し伝える。
安全管理・保健管理	<ul style="list-style-type: none">・認定こども園に移行するにあたり「危険管理マニュアル」の作成。教職員の共有理解に努める。・災害発生時や不審者侵入に際して、自己の役割を各教職員が意識し乳児を含めた園全体の避難訓練の計画、実施を行う。・園児一人ひとりが自分の身を守ることの大切さを感じ行動できるように指導する。・施設設備及び園舎周辺の定期的な安全点検、危険個所の早期発見、対処の徹底を図る。・教職員の共通理解においての感染症対策の実施。・乳児を含むアレルギー除去食を保護者、教職員で連携、確認をして提供をする

3. 評価項目の取組み結果・今後の課題

保育環境の充実 保育の質の向上

乳児保育 初めての環境の中で子どもたちが安心して過ごせるように職員間の共通意識の中で一日の流れ・保育環境の充実に取り組んでいた。

一人ひとりの子どもの成長に合わせ丁寧に関わる保育を心がけていた。今後は一年間の保育を振り返り、改善点を含め、乳児保育の質の向上に努めていきたい、

幼児保育 子どもたちが主体的に活動し、遊びがより充実できるように保育環境を整えて保育に臨んでいた。認定こども園に移行したこの1年を振り返り、より職員間の保育の質の向上を目指し共通意識を持つことが大切と感じる。

自然が沢山の環境の中で「環境を通して行う保育」を基本とし、「人間としての基礎を培う保育」の実現を目指し職員間の共通意識をより深く持ちたい。

保護者との連携 コロナ禍での園の運営の中で、保護者との関わりが少なかったことはとても残念。その中で子どもたちが安心して園生活を送ることができるように保護者への連絡、クラスblogでの活動報告、乳児の連絡帳で丁寧に伝えることを心掛けていた。

安全管理・保健管理 災害発生時や不審者侵入に際して、自己の役割を各教職員が意識し乳児を含めた園全体の避難訓練の実施を行った。園児一人ひとりが自分の身を守ることの大切さを感じ行動できるように指導する中、職員・子どもたちも真剣に取り組んでいた。1年間の反省を振り返り、専門的な指導を取り入れより深い「危機管理意識」の向上を目指していきたい。

乳児、幼児に対する日常の健康観察、感染症対策（手洗い・うがいの励行、保育室温度湿度管理）の徹底に努めた。職員一人ひとりの意識は高く処置対応も良くてきている。

施設設備及び園舎周辺の定期的な安全点検、危険個所の早期発見、対処の徹底を図ったがまだまだ改善点がある。職員との共通意識と早急な対応を心がける。

4. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
① 教育の質の向上 保育環境の研究	<ul style="list-style-type: none">• 本園の教育目標・教育要領を職員間で、共通理解の中、子どもたちが主体的に活動し遊びがより充実するように、保育環境や援助の在り方を話し合い、研究する。• 日々の保育の記録から園児の育ちを職員一人ひとりが視点をもってより一層、幼児理解につながるよう努力する。• 園または、教職員に対して必要な研修内容を検討し、計画的に園内外の研修に取り組むことで更なる教職員の資質向上に努める。
② 安全管理	<ul style="list-style-type: none">• 教職員の安全確保に関する共通理解を図る。• 保育中、登降園における安全確保の体制• 園外保育、行事における具体的な安全管理の取り組み• 安全に配慮した園庭、園舎の体制 災害時や不審者の立ち入りなど緊急時の体制
3 乳児と幼児の職員間の 連携	<ul style="list-style-type: none">• 研修を通して乳幼児保育の共通意識・共通理解を図る• 主任会議の中で保育の報告、連絡を密にし職員間の連携を図る